

地域における疥癬集団発生時の対応力の推進	
北多摩西部保健医療圏	
実施年度	開始 令和6年度、 終了（予定） 令和6年度
背景	疥癬はヒゼンダニがヒト皮膚角質層に寄生して人から人へ感染する疾患である。疥癬は過去の疾患と認識されることが多いが、現在でも高齢者施設等で集団発生事例が散発している。疥癬発生時の対応の際には、診断・治療に関しては日本皮膚科学会の「疥癬診療ガイドライン（第3版）」、当所が平成21年3月に作成した「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル」が広く活用されている。 令和5年度、当所では有料老人ホームにおいて規模が大きい疥癬集団発生事例を経験した。対応する中で、前述したマニュアル等には集団発生時の感染拡大予防策に係る記載が乏しく、施設・医療機関・保健所等の関係者が協働し対応する指針が示されていないと感じた。このことから、当所のマニュアルにこの集団発生時の対応方法を示し、施設や関係機関等に活用されることで、地域の対応力推進に資すると考えた。
目標	地域ケアにおける疥癬対応マニュアルを改訂し広く周知することで、地域の疥癬集団発生時の対応力を推進する。
事業内容	1 地域ケアにおける疥癬対応マニュアルの改訂 改訂部会を3回開催（委員は有識者4名、疥癬集団対応を経験した3施設4名の計8名） 2 改訂マニュアルの製本と配布、当所ホームページにPDF掲載 3 改訂マニュアルを用いた研修会の開催（対象は管内6市の高齢者施設、障害者施設、医療機関、行政機関、都内保健所）
評価	マニュアル改訂にあたり、令和5年度発生の事例を分析し、また、疥癬集団事例を経験した施設の現場スタッフからの生の声を積極的に収集し、現場レベルでの課題や改善点を反映させた。併せて、有識者の意見を取り入れることで、最新の知見に基づいた内容を盛り込んだ。現場の声やフィールドの分析と専門家の知見を融合させることで、より実践的で信頼性の高いマニュアルが作成できた。 具体的には、現場対応にあたり寄せられる可能性が高い質問はQ&A形式でまとめ、現行マニュアルでは記載がなかった「集団発生の対応」項目を追加し、詳細な対応手順を示した。加えて、現場で活用できるお役立ちツールを現行版から大幅に増やしたことで、現場スタッフは具体的なツールを活用しながら効果的かつ効率的に対応を進めることができるようにした。 改訂マニュアル完成後には、77施設253名の参加のもと、「地域における疥癬集団発生時の対応力の推進」研修会を開催した。事後アンケート結果、今後取り組みそうなことについて、全参加機関と職種が「マニュアルに従った対応」と回答した。このことから、改訂マニュアルは様々な現場、職種に役立つ有用性の高いツールであり、今後施設や関係機関等において活用が進むことで、事業目標とした地域の疥癬対応力推進に資することが期待できると考える。 今後の課題としては、改訂マニュアルの更なる普及と活用促進が挙げられる。また、現場からのフィードバックを迅速に収集し、実際の対策に反映させる仕組みを構築することも必要である。これらにより、マニュアルの実用性をさらに高めることができ、さらに、関係機関との連携を強化し、情報共有を円滑に行うことで、地域全体での疥癬対応力を向上させることが求められる。
問合せ先	多摩立川保健所 保健対策課 感染症対策担当 電話 042-524-5171 ファクシミリ 042-524-2011 E-mail S1153303@section.metro.tokyo.jp

1 疥癬について

(1) 疥癬とは

- ・ヒゼンダニ（疥癬虫）が皮膚角質層に潜り込み、増殖し、強い痒みや発疹などを伴う皮膚疾患で、人から人へ感染する感染症である。その痒みから、QOLを低下させる。
- ・治療薬（抗ダニ剤）を投与しなければ自然に治癒することは基本的にはない。治癒しても免疫はできず、何回でも感染する。
- ・高齢者施設や病院などで集団発生することもあり、免疫力が低下している高齢者などでは、感染力の強い重症型の疥癬(角化型疥癬)を発症しやすいため注意が必要である。



(2) 疥癬の発生を把握する仕組みと課題

日本では、疥癬は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」とする）の届出疾患ではないため、市中での発生動向を確認する仕組みがない。これにより、地域での発生数や流行の傾向を把握することが難しく、保健所が探知した時には、高齢者施設等ではすでに感染が拡大している場合がある。

(3) 疥癬の集団発生の考え方

日本皮膚科学会の疥癬診療ガイドライン（第3版）では、集団発生とは「同一の病棟・ユニット内などで2か月以内に2人以上の疥癬患者が発生した場合を集団発生（out break）とする」とされている。

（引用：日本皮膚科学会疥癬資料ガイドライン策定委員会：疥癬診療ガイドライン（第3版），日皮会誌，2015；125：2023-2048）

2 事業背景

(1) 令和5年度 多摩立川保健所管内の疥癬集団発生の状況

施設形態	件数
介護付き有料老人ホーム	3件
病院	2件

（集団事例の特徴）

- ・高齢者が入所・利用する施設からの報告が多い（高齢者は、施設⇄施設、施設⇄病院、病院⇄病院の移動で感染を広げる可能性がある。治療していない患者が潜んでいると、治療した者でも何度でも再感染する）。
- ・疥癬の集団発生が増えているのか、地域的な流行があるのかはサーベイランスデータがないため判断できないが、報告数の増加とともに対応に苦慮する施設が増加している。

(2) 疥癬集団感染事例への積極的疫学調査を実施しての気づき

事例	気づき
皮膚科診察を受けても疥癬と診断されないため、治療に結びついていない事例が複数例あった。	「ところで、疥癬の心配はありませんか？」 と医師に質問する必要
皮膚科に通院している者の中には、疥癬以外の皮膚病と診断され、ステロイド外用薬が長期間投与され続けたことで疥癬を悪化させ、感染を拡げる原因となっている事例が複数例あった。	
初発患者が全介助等、密着度の高いケアを伴う場合は、職員が感染し、感染拡大の原因となっている事例があった。	感染経路の推定に重要な情報
介護度が低く、患者間の交流があるところでは、職員は感染しておらず、入所者のみから患者発生している事例があった。	
経過が長い一症例として、治療確認後約4か月後に再発した事例があった。	観察期間は長期間必要
疥癬とは診断されず、入所（入院）、退所（退院）した事例が複数例あった。	感染の連鎖を断ち切る必要

(令和7年3月4日疥癬対策研修会資料作成より引用)

(3) 既存マニュアルの課題

事例発生時には、これまで平成21年に当所が発行した「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル」を活用してきたが、当該マニュアルには集団発生時の感染拡大予防策に係る記載が乏しく、施設・医療機関・保健所等の関係者が協働し対応する指針が示されていない。

3 事業目標

「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル」を改訂し広く周知することで、地域の疥癬集団発生時の対応力を推進する。

4 事業内容

(1) 地域ケアにおける疥癬対応マニュアルの改訂

ア 地域ケアにおける疥癬対応マニュアルの改訂部会の開催

有識者、疥癬集団発生を経験した医療機関、福祉施設関係者から選出した8名の委員による部会を下記の通り開催し、マニュアルの内容を検討した。

回数	日程	内容
第1回	令和6年6月12日	令和5年度管内集団発生事例の共有、課題の抽出 マニュアル改訂の目的、方法、ポイントの確認
第2回	令和6年9月13日	改訂案に関する内容の協議
第3回	令和6年11月7日	改訂案に関する最終確認 疥癬対策研修会の内容の確認

イ 改訂マニュアルの工夫

- ・積極的疫学調査で把握した現場レベルでの具体的な困りごと（例えば、内服加療後も掻痒感が続くこと、ケアにあたる職員の感染予防策、清掃の仕方、衣類の処理方法等）を把握し、今回の改訂内容にも反映した。
- ・現場対応にあたり寄せられる可能性が高い質問は Q&A 形式で掲載した。
- ・集団発生時の各機関の具体的な対応手順や連携の方法を新たに追記した。
- ・報告様式および発生時施設に掲示できる資料に関しては写真やイラストを多用し、誰もが一目で分かるようにした。このように実際の現場において活用できる 18 のツールを付録として加えた。



疥癬連絡票（初回報告様式）

職員健康状況調査（初回）

健康観察表（自己チェック用）

疥癬の発生についてのお知らせ



清掃用具の処理方法

シーツ・衣類の処理方法

ゴミの捨て方

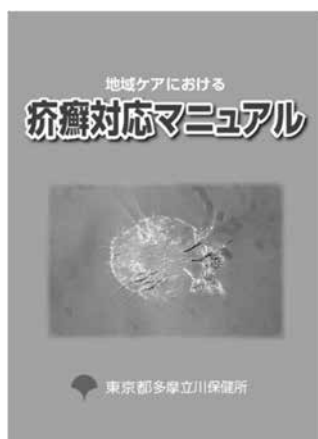
絵で見る感染拡大防止対策

(2) 改訂マニュアルの普及啓発

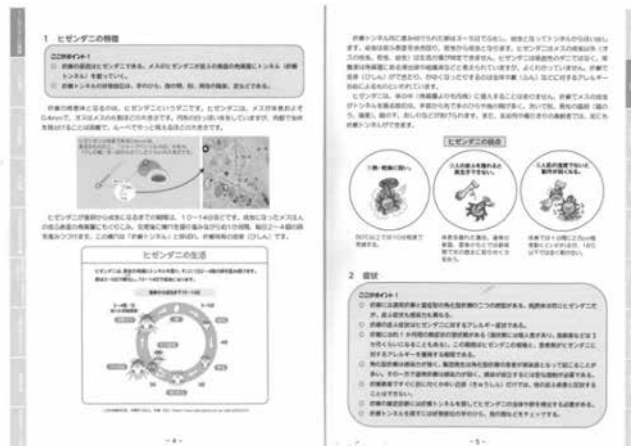
改訂マニュアル完成後、製本版については、研修会の申し込み施設や関係機関へ配布した。

また、広くダウンロードできるように当所ホームページへPDFファイルを掲載した。

【製本版】



改訂版マニュアル（表紙）



改訂版マニュアル（本文）

物受渡 保健・医療を支える体制づくり

東京都多摩立川保健所 Tokyo Metropolitan Tama-Tachikawa Public Health Center トピックス よくある質問 医療機関への通知等 多摩立川保健所概要 保健 >

[東京都多摩立川保健所](#) > [感染症に関すること](#) > [各疾患について](#)

各疾患について

更新日：2025年3月7日

各疾患に関する情報

- ・[感染症を探す | 厚生労働省](#)
- ・[疾患名で探す\(類型別\) | 東京都感染症情報センター](#)
- ・[「東京都感染症マニュアル2018」について | 都民の方へ | 東京都保健医療局](#)

疥癬について

- ・[「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル（全文）」 | 東京都多摩立川保健所](#)

▼お役立ちツール ダウンロードし改編してご活用ください。

[①疥癬速報票 \(word\)](#)

[②疥癬対応状況調査様式表 \(excel\)](#)

[③有症状者経過一覧 \(excel\)](#)

[④職員健康調査票 \(powerpoint\)](#)

[⑤診療情報提供書 \(word\)](#)

[⑥疥癬発生についてのお知らせ \(word\)](#)

- ・日本皮膚科学会雑誌第125巻第11号 [疥癬診療ガイドライン \(第3版\)](#)
- ・日本皮膚科学会雑誌第128巻第13号 [疥癬診療ガイドライン \(第3版追加\)](#)
- ・疥癬 (かいせん) — 皮膚科Q&A (公益社団法人日本皮膚科学会)

感染症に関すること

多摩立川感染症週報

新型コロナウイルス
感染症に関すること +

結核・エイズ・性感
染症・肝炎 +

【医療機関・施設の皆さまへ】集団発生が起きた時

感染症サーベイランスシステム(NESID)のアカウントの申請について

- ・各疾患について

多摩立川感染症週報 (過去分)

感染症対策について

令和 7 年 3 月 4 日、多摩立川保健所管内 6 市（立川市、昭島市、国分寺市、東大和市、武蔵村山市）の高齢者施設、障害者施設、医療機関、行政機関の職員を対象にハイブリッド形式で開催し、77 施設 253 名が参加した。



- ① 地域関係機関職員への疥癬対応の啓発
- ② 改訂マニュアルの紹介

内容	講師
疥癬の基礎知識と対応のポイント	国立感染症研究所 名誉所員 石井 則久 医師
当院で発生した同一患者を発端とした 2度の疥癬アウトブレイク事例について	病院 感染管理認定看護師
「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル (第4版)」の活用法	多摩立川保健所 感染症対策担当保健師

ウ 事後アンケートの結果（77／77、回収率 100%）

参加した所属機関や職種はそれぞれ「都内保健所・関係機関」（39／83 施設）、「保健師（32／253 人）」が最も多く、内容について 9 割以上が「分かりやすかった。」「満足した。」と回答した。アンケート結果から、本研修会が参加者にとって有義な学びの機会となり、今後の業務に役立つ知識やスキルを啓発できたと考える。研修会全体の感想としては、約 4 割が「疥癬について学ぶ機会が少なく、その都度調べ対応していたため、今回の研修で幅広く学ぶことができて勉強になった。」と回答しており、疥癬をテーマとした本研修会が医療・介護現場の方にとってニーズの高いものであったことが把握できた。

5 評価

- ・マニュアル改訂にあたり、令和 5 年度発生の事例を分析し、また、疥癬集団事例を経験した施設の現場スタッフからの生の声を積極的に収集し、現場レベルでの課題や改善点を反映させた。併せて、有識者の意見を取り入れることで、最新の知見に基づいた内容を盛り込んだ。現場の声やフィールドの分析と専門家の知見を融合させることで、より実践的で信頼性の高いマニュアルが作成できた。
- ・集団発生時の感染拡大予防策に係る記載を充実させ、施設・医療機関・保健所等の関係者が協働し対応する方針を示すことができた。研修会の事後アンケートからも、今後可能な取り組みとして『「改訂版マニュアル」に従った対応』と全ての参加機関、参加者が回答しており、現場での活用が見込まれる。

6 まとめ

今回の取組により、集団発生時の各機関の対応を追記し、写真やイラストを含むツールを付記した。今後も地域全体の疥癬対応力のさらなる向上につながるよう、保健所で行う感染症講演会や関係機関連絡会、施設等からの相談時等に本マニュアルを活用し普及に努めていきたい。